



探訪 長門のいしおみ ③③

赤菫句碑

せきふく

この句碑は真木・奥畑のオケ峠（潮見坂）にある。細い峠道の七合目付近、石積みの上に立つ碑の表にはつぎのように刻まれている。

ハキ 赤菫

幾とせや

すみれ花さく春のやま

（碑の裏面には「潮見坂」の刻銘がある）

碑に紀年銘はないが、風化の進み具合から見てその建立はかなり古く（江戸末期ごろか）、拓本によらなければ刻字を読み取る



ことはできない。

句の作者、赤

菫は萩の人。『萩俳諧史』（山本勉著）の「金比羅社奉納千句集」（江戸末期、安政年間編か）の選者に「赤菫」の名が見られるが詳細は不明。

オケ峠は、奥畑から三隅町二条窪へ抜ける途中にある峠。「潮見坂」の呼称は、峠から遠く日本海が見えることに由来するという。いまでは人の往来も途絶えたこの峠道も、かつては真木の住民の生活に、重要な役割を果たしていた。村人は農産物や特産の木炭を背負い、あるいは牛の背に載せ、この峠を越えて豊原（三隅）や瀬戸崎（仙崎）へ運んだ。

句の「すみれ花さく」は、「すみ（炭）で花さく」にかけたものともいわれ、木炭で潤ったころの村の様子がしのばれる。

句碑は、坂道を黙々と荷を運ぶ村人の心を和ませ、励ますために造立されたのであろう。建立者は、当時、真木に在住していた三戸勉之と伝えられている。

峠の頂上には真木（榎）の村中で祀ったお地藏さん（安政6年11859年造立）が、いまも健在である。

（寄稿・長門市郷土文化研究会）

（正）



あなたの応急手当が命を救う

突然の事故や病気の人の救命率向上には、救急隊が到着するまでに現場に居合わせた皆さんの適切な応急手当が非常に大切です。

消防署では、現在住民の皆さんを対象とした、応急手当の普及啓発に努めており、要望があればいつでも講習会に出かけます。また、職場、グループ活動等での参加も受付けていますのでお気軽にご相談ください。

「消す心 置いてください 火のそばに」

（平成14年度全国統一防火標語）

ハイ！
こちら119



火災時の問い合わせは

☎ 22-1414

長門地区消防本部・中央消防署

☎ 22-0119